

平成23年度新入社員研修会

●開催日時：平成23年4月12日

●会場：東京屋外広告ディスプレイ健康保険組合 会議室

社会人としてのビジネスマナー

講師：マネージメントサポートグループ 稲田 千絵氏

4月になり、フレッシュな新入社員がやってくる季節となりました。そんな新入社員にとって職場の中で、何をしたらよいのか？電話ってどうやって出たらいいのか？自分には何ができるんだろう？などと不安があとを立たないのではないのでしょうか？受け入れる先輩側もまた、どこちなかったりして…。この研修は、社会人としてのマナーや、学生と社会人の違いなどを発見し、基本のほんの一部だったと思いますが、何をすればよいのか？ ヒントもあり、『気づき』を実感出来た研修会だったと思います。いくつか研修内容のご紹介をさせていただきます。まず、最初に何も分からない中でできることはなんでしょう？大きな声で返事をする。専門的な知識はまだ備っていないこの時期、「元氣」で会社に貢献できるのです。

大きな声を出す勇気も大事です。

つづいて仕事をするにあたっては、お客様にいかにか好印象を持つ



てもらえるか？これは、第一印象が重要であることを教えていただきました。

まず55%の人が最も気にしているポイントが、目で見える視覚情報です。これは、顔の表情・態度・身だしなみのことです。

次が38%で聴覚情報です。声のトーン・明るさなどがその人の雰囲気を作ります。

7%は話した内容です。

このようにどんなお客様とお会いするか分からない中、派手でなく控えめか？相手様に合うか？、相手(または先方の企業文化／企業風土)の社風に合うか？など必要な『配慮、気配り』ということです。

また、服装、髪型、メイク、挨拶の会釈の仕方など参加者同士で、隣の人(新人同士)と向かい合わせになりながら、良いとこ、悪いとこ指摘しながら自分でも『気づき』を実感できたのではないのでしょうか？

この研修会で学んだことは、まだまだほんの少しの経験ですが、この経験の積み重ねがあつてこそ、次の発見『気づき』があるかと思えます。

早く先輩に貢献できるよう、会社に貢献できるよう、また、社会にも貢献できるかも考え、学んでいってください。次の春が来るころには、どんな先輩になっているのでしょうか？

楽しみです。

広報委員 大類 憲司／(株)フジヤ



東京マラソンの舞台裏

講師：(株)シミズオクト 鈴木 康之氏／田中 治氏

皆様の中でも参加された方がいらっしゃるかもしれませんが、35,000人が走り一日交通規制が行われる今や東京の一大イベント東京マラソンについて、平成23年度新入社員研修会にて(株)シミズオクト 鈴木康之、田中治 両氏により東京マラソンの舞台裏の講演がありました。

東京マラソンに先駆けて2005年(株)シミズオクトでは、東京マラソンプロジェクト室を設立しました。プロジェクト室のメンバーはその後2年半これのみに専念することになりました。

2005年度は組織編成(社内体制スタッフニング、作業内容の整理と確認、基本計画の構築、各種リサーチ。リサーチでは、都内マラソンコースの各所を検証、世界5大マラソンの視察。特にニューヨークマラソンは東京と同規模と考え注目したそうです。特に驚いたのがEXPO(前日まで大きな会場を使った展示会)で多くの人々がマラソングッズを大量に購入している様子やスタート後にランナーが脱ぎ捨てた上着を集めて寄付するシステムなど日本では、導入されていないことだったそうです。



2006年度は実地計画の作成、制作物の試作、視察から得た提案。業務内容が決まっ

てからは、製作、警備工

リアに協力を依頼し、日本陸連、東京都の管轄のほとんどの会議に参加させてもらったそうです。

また、マラソンコースは可能な限り地下鉄に沿うようにし、歩行者が横断できる様に計画したり、50mのワイヤーを使用しゴールデンウィーク中早朝より3日がかりでコースの距離計測も行ったそうです。

2007年度は、各種申請業務、スケジュールの作成、マニュアル作成。事前に交通規制物も製作し、全て実際に確認し、実現に必要な許認可と調整の為 東京都、警視庁、各署轄、国土交通省、各沿道の区等とも交渉を行ったそうです。このように本番までの3年間はあっという間に経ってしまったそうです。本番での、大量のカラーコーン、標識、仮設トイレの設置などスライドにて解説いただきました。

最後に、両氏から新入社員さん達へ何事にも興味をもつこと、一期一会。人と人との出会いを大切に感謝の気持ちを忘れないことをお伝えいただきました。

長期にわたる壮大なプロジェクトを締めくくっていただきました。ありがとうございました。

広報委員 中野 肇／(株)東広

